

---

# 三分で！ダマされないための『歴史・経済の教科書』

怒満坊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三分で！ダメされないための『歴史・経済の教科書』

### 【Nコード】

N8151J

### 【作者名】

怒満坊

### 【あらすじ】

ロスチャイルド、ロックフェラー、モルガン…学校で習う歴史には書かれていない、闇の歴史。彼らが織り成す、歴史に、光を当てる。

## 序

筆者のネームの由来は、「怒り満ちる坊」だ。

「坊」は、夏目漱石の「坊ツちゃん」からいただいた。とても気に入っている。その名の通り、筆者は、いつもぶんぶんしている。

ニホンザルに、ペンをもたせれば、それが「筆者」だ。

おサルに住む国日本は、なんといっても、自殺大国である。年間三万人が死んでいる。

戦争ですか……？

セカンド・インパクトの予兆かもしれない。

たとえば、広島・長崎の原爆での死者が、たしか、33万人ほどだったと記憶している。

つまり、十年もすれば、自殺者数>原爆死者数 となるわけだ。

政治とは何だろうか。

人は、どこからか生まれて、いつしか死んでゆく。

死んだ後の世界は、誰も知らない。それを明かすのが宗教らしいが、宗教は商売である。

政治の本質は、このような「渡世の場」である社会において、誰もが安らかに過ごしていける社会を築くことではなからうか？

自然界は、我々に厳しい。裸一つで生まれてくる人間に、雨風は、我々の身体に容赦なく荒れ狂う。

そこで、「衣・食・住」を、我々は作らなくてはならない。

それが、社会だろう。人は、生きていくためには、自然と共存しながらも、これとは異なつた有機的世界を作らねばならない。

まあ、いろんな意見があろう。

しかし、筆者は思うのだ。

これって、そんなに難しいことか???

何がこんなに、これを難しくするのだ???

何がこんなに、自殺者を増やすのか???

こんな疑問を感じた読者の方よ、筆者とともに、  
違う人間の歴史を紐解いて見ようではないか。

## 善悪に主義思想なし（前書き）

「過度な社会主義は、全体主義であり、過度な資本主義は、帝国主義である」

## 善悪に主義思想なし

社会主義・共産主義について語ろう。

現在、この経済制度を採用しているのは、

- ・中国
  - ・北朝鮮
  - ・ベトナム
  - ・ラオス
  - ・キューバ
- である。

実質、中国は、資本主義国家であろう。

過度の情報規制は、独裁主義であり、情報の規制などというものは、我らが日本やアメリカでも行われていることで、社会主義国家特有のものではない。イギリスは、いまだに貴族制度が現存し、貴族の子息は、21歳になれば、自動的に、議員になれる。これが、民主主義の実態である。「理想」と「現実」は、水と油である。

したがって、地球上に、報道の自由などはない。

あるとすれば、卑猥なポルノであり、これも、一種のプロパガンダである。

彼らの標語は、「映画・SEX・麻薬」である。「カルト宗教」を加えれば、支配の正方形が完成する。

マルクスは、「宗教はアヘン」だと言った。

皮肉なことに、マルクス主義自体も、国家統治のための擬似宗教に成り下がった。

マルクス主義は、？分析理論の部分と、？イデオロギーの部分に分けて考えた方が分かり易い。

？…分析理論のマルクス主義は、「生産資本の私的独占を通じた、

資本家階級による労働者階級の疎外と搾取」であり、これは、現代の開発途上国・先進国にも、十分当てはまる支配構造である。マルクスの功績は、経済のメカニズムを、科学的に分析し、構造的な理解を提示したことにある。

？…だが、彼の失敗は、先走りすぎたことにある。

なぜなら、イデオロギー部分には、科学的根拠がないからだ。「社会主義革命」、つまり、労働者階級が主体となり、段階的に、共産主義体制に移行するというものだ。

しかし、これは、現代にあてはまるものではない。

なぜなら、マルクスの時代は、普通選挙制など整ってなく、一部の民族は、人権すら認めてもらえなかった時代だったからだ。

それゆえ、選挙制度が、制度として整備された現代では、「革命」などというものは、正当性を保ちうるようなものではない。「革命」といい、どれだけの人間が死ぬことになるだろうか？

（以上、土屋彰久著『教科書が教えられない政治学 現代史スペシャル』より）

それゆえ、イデオロギーの部分において、マルクスは、批判していた空想社会主義そのものになってしまった。

科学的根拠を欠き、ヨハネの黙示録のような、オカルト理論である。

後世の人間は、マルクスの、この宗教的な部分を、熱狂的に賛美し、礼賛した。

実際、ソビエトが樹立したが、蓋を開けてみれば、スターリンの独裁であり、巨大な官僚国家であった。

ソビエトは崩壊した。

崩壊後も、オリガルヒといわれる、新興ユダヤ人が、すべての資本を独占していた。労働者などどこにもいなかった。

したがって、現実を、主義思想で眺めることはかなり危険である。あの国は、社会主義国家だといっても、実状は、ただの独裁主義である。また、民主主義だといっても、この日本が、果たして、真の民主主義国家であろうか?? 検察審査会のメンバーすら教えてもらえない、この日本が??

日本は、アメリカ直属の、お上国家である。

陰謀論で、よく語られるのは、ユダヤ人は資産を独占し、金に汚い、皆悪だという極論に至るものがある。

しかし、ユダヤ人の貧困層は、ゲットーと呼ばれる差別地区に隔離され、ほとんどが低所得労働者であった。アウシュビッツに送られたユダヤ人も、ほとんどが、極貧者層であり、支配とは全く無関係であった。そもそも、アウシュビッツは、一つの商売であったのだが… また後ほど。

それゆえ、ユダヤ人は皆悪だという言葉に惑わされてはならない。人種は関係ない。

主義思想も無意味である。

事実が真実を語るだけだ。



## 愚弄バリズム「1」（前書き）

### 【ジャーナリズム三原則】

歴史を忘れてはならない。

歴史を偽ってはならない。

歴史を知らなければならぬ。

## 愚弄バリズム【1】

ホワイthouseを『牛』耳る、アメリカの食肉業者たち。  
我々は、日々、その口に食している。

現在、ほとんどのチェーン店・ファミレスは、特別な表示がなければ、

アメリカ産牛を使用している・・・

### 【四大食肉業者】

スミスフィールド・フーズ（全米豚肉トップ）

アイオワ・ビ

ーズ・パッカーズ

（買収） IBP

タイソン・フーズ（全米チキン王者）  
（世界最大の精肉業者・アイオワ州）

コンアグラ （買収） アーマー（20世紀のビルゲイツ、  
穀物商社）

カーギル（貿易自由化の最大勢力） （買収） 世界第二位の穀  
物商社コンティネンタル・グレイン

（買収） 山一ファイナン

ス（山一證券の子会社）

コンティビーフ （コロラド州）

カクタス・フィダーズ（テキサス州）

ゼネラル・ミルズ

。

【それらの肉を扱う・米飲食企業】

マクドナルド    ピザ・ハット    ケンタッキー・フライドチキン    バーガー・キング    ウォルマート・・・

【事件】

2002年7月 『コンアグラ・ビーフ』社の肉から、O-157が検出される。回収するも、その廃肉を、スパゲッティなどのミートソースに利用している可能性が指摘された・・・

2003年12月 ワシントン州の農場で、狂牛病に感染した牛が発見された。アメリカで初めてのこと。隠蔽に奔走。「ダウナー牛（だめ牛）」だと説明。

農務長官アン・ヴェネマンと通商代表ロバート・ゼーリック（現世銀総裁）が、密着し、「狂牛病問題」の隠蔽に骨折ってきた。

ヴェネマン農務長官は、検査する牛の数を、二万頭から四万頭に引き上げると宣言した。しかし、2004年七月、牧場で死んだ異常牛のほとんどが、検査されていないというニュースが流れ、全米中を驚かせた・・・

また、コンアグラの精肉工場では、同僚6人を射殺して、犯人が自殺する猟奇事件が起こった。この肉の処理工場は、不潔さと、それを消毒する薬が氾濫し、それを見たら、輸入肉が食べられなくなるほどの光景だという。

こうした食肉業者は、『全米肉牛生産者協会』や『肉牛畜産振興会議』を結成し、ホワイトハウスに、貿易自由化のロビー活動どころか、ホワイトハウス入りし、グローバル化を促進しようとしている。

タイソンフーズの顧問弁護士ジェームズ・ブレアは、アーカンソー州知事クリントンを担ぎ出し、パメラ・ハリマン女史とともに、

クリントンの大統領選挙を支援した。その後、フーズファミリーは、クリントン大統領とともに、ワシントンを占拠。その時の、財務長官ロバート・ルービンは、シカゴ取引所で、飼料穀物の取引を支配してきた男である。

なぜ、貿易自由化を促進するのが、これで氷解するはずだ。

## 愚弄バリズム〔2〕

こうした、自由貿易が広まれば、日本の企業以上に、人材も資源も恵まれた、欧州多国籍企業が、莫大な利益をあげるのは眼に見えている。

その頂点に立つのが、『ユニリーヴァー』だ。

あらゆる日用品を扱い、あらゆる食品を扱う『ユニリーヴァー』は、あのお馴染みの貝殻マーク『ロイヤル・ダッチ・シェル』の兄弟会社でもある。日本の大手石油会社『昭和シェル石油』は、その子会社である。

『ユニリーヴァー』は、東南アジアの植民地企業であった『リーヴァイ・ブラザーズ』（リーヴァイ・コーエン）と『マーガリン・ユニ』が経営統合してできた会社。その『リーヴァイ・ブラザーズ』は、ユニテッド・アフリカ（UFC）United Africa Company）を所有しており、文字通り、アフリカを支配していた。

このような戦前から、世界を支配してきた欧州企業に、戦後から、ようやく、発達してきた日本のような企業が敵うわけもないのである。

なぜなら、欧州企業は、ほぼ、あらゆる会社が親戚であり、その中枢に君臨するのが、かのロスチャイルド家であるからだ。彼らは、金融から食品、そして原子力まで、ありとあらゆる事業を、その手中に収めている。

GATT（関税貿易一般協定）で、誰が得をしたか？  
アメリカに巢食う穀物商社たちである。

カーギル

ルイッドレフェス

コンティネンタル・グレイン

ブレゲ      アンドレ      アーチャ・ダニエルズ・ミッドランド

この中でも、ずば抜けているのが、『カーギル』である。しかし、その実態は、秘密のヴェールに隠されており、

アメリカの住民でさえも、その存在を知らない人が多い。この秘密穀物会社に、資金を与えているのが、チエース・マンハッタン銀行・・・その会長が、世界皇帝と謳われる「デヴィッド・ロックフェラー」である。彼は、新生銀行の社外取締役でもあった・・・

さて、こうした巨大穀物企業の背後にいて、同じくらいの力をもつのが、穀物を保存するための「倉庫<sup>サイロ</sup>」を所有する製粉企業なのである。製粉企業は、四つの“家族”に牛耳られ、しかも、その“家族”は、一つのファミリーを形成している。

ウォツシュバーン家（      ゼネラル・ミルズ副社長ステイブ  
ン・ロスチャイルド）

ピルズベリー家      （全米精米業者協会）      リチャ

ード・ベル（大統領農政委員会）

クロスビー家

ベル家

なぜ、製粉会社が、「精米」なのか？

『全米精米業者協会』とは、通称、Rice Millers Association-RMA である。Millerとは、「製粉業」の意味もある。つまり、小さな米業界の資本家に介入し、「米の自由化」から、日本との交易に穴を開けようとしたわけである。

勿論、日本の外交官は、知らなかっただろう・・・『全米精米業者協会』に、カーギルの子会社トレーダックスや、ルイードレフェ

ス、アーチャー・ダニエルズ・ミッドランドという小麦・穀物の巨大商社が名を連ね、米のみならず、ありとあらゆる農産物の自由化を狙っていたことを・・・

ガットで、日本に大きな圧力をかけたのは、以下の人物たちである。

カーラ・ヒルズ

（『アンハイザー・ブッシュ社（あのバドワイザーの会社）』の重役ロデリック・ヒルズの妻）

子会社『ブッシュ農業資源社』 全米精米者協会 に加入している

リチャード・ビル（国際小麦会議のアメリカ代表、精米会社『ライスランド・フーズ』の社長）

こうした実態を、日本人は知らない。

彼らは、国の利益を代表し、“経済上の平和”、“人類の協調”を目的としていたわけではない。

簡単に言えば、自分のメリットになるからやっていることなのである。彼らにとって、外交とはビジネスであるからだ。

金融、食品、薬品、自動車、航空機・・・すべてが、欧米では、地脈でつながり、たとえ、後継者争いはあるとしても、それらは、利権という“一本の鎖”でつながり、なにかあれば、資金を糾合して、この地球全土に、利益を拡大する機会を狙っているのである。

グローバル化と、容易く唱えるのは間違っている。

特に、農産物に、グローバル化など、必要ない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8151j/>

---

三分で！ダマされないための『歴史・経済の教科書』

2010年10月10日10時23分発行